

# 平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月8日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東

コード番号 9468 URL <a href="https://info.kadokawadwango.co.jp/">https://info.kadokawadwango.co.jp/</a> 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)川上 量生

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 小松 百合弥 TEL 03-3549-6370

四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無:有

四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日~平成30年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		売上高 営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	102, 129	0.6	2, 864	0. 2	3, 934	29. 4	2, 119	21. 1
30年3月期第2四半期	101, 473	1. 7	2, 858	△35.3	3, 039	△24. 2	1, 749	△42.1

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 3,563百万円 (43.0%) 30年3月期第2四半期 2,492百万円 (Δ3.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	32. 82	_
30年3月期第2四半期	25. 81	_

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	238, 073	108, 458	44. 7	1, 683. 16
30年3月期	239, 881	109, 128	44. 7	1, 629. 37

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 106,381百万円 30年3月期 107,136百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭		
30年3月期	_	0.00	_	20.00	20.00		
31年3月期	_	0.00					
31年3月期(予想)			-	20. 00	20.00		

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無:無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日~平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上	高	営業和	引益	経常和	引益	親会社株式 する当期		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	231, 000	11. 7	8, 000	154. 4	9, 100	144. 8	5, 400	420. 1	82. 13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

## ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動):無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用:無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 :無② ①以外の会計方針の変更 : 有③ 会計上の見積りの変更 :無④ 修正再表示 : 無

### (4)発行済株式数(普通株式)

1	期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	70, 892, 060株	30年3月期	70, 892, 060株
2	期末自己株式数	31年3月期2Q	7, 688, 566株	30年3月期	5, 139, 152株
3	期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	64, 571, 265株	30年3月期2Q	67, 783, 852株

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

# ○添付資料の目次

1.	当四	U半期決算に関する定性的情報	2
	(1)	経営成績に関する説明	2
	(2)	財政状態に関する説明	3
	(3)	連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2.	四当	半期連結財務諸表及び主な注記	5
	(1)	四半期連結貸借対照表	5
	(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
		四半期連結損益計算書	7
		四半期連結包括利益計算書	8
	(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
	(4)	四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
		(継続企業の前提に関する注記)	10
		(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
		(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	10
		(追加情報)	10
		(セグメント情報)	11
		(重要な後発事象)	11

# 1. 当四半期決算に関する定性的情報

#### (1)経営成績に関する説明

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、あらゆるコンテンツの価値を高めるプラットフォーマーとしての 飛躍を目指し、出版から総合メディア企業を目指す(㈱KADOKAWAと、ネットとリアルの融合を目指すIT企業㈱ドワン ゴの創造性を結集しながら、魅力あるコンテンツをあらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるメディアミックス戦略を積極展開しております。

当第2四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

Webサービス事業の売上高は138億28百万円(前年同期比10.2%減)、セグメント損失(営業損失)は1億円(前年同期 営業利益3億93百万円)となりました。

ポータルでは、日本最大級の動画プラットフォームである「niconico」における「ニコニコプレミアム会員」のサービス収入を柱とし、ウェブサイト上のバナー等の広告、有料動画等の関連収益を計上しております。「niconico」においては、回線の増強や画質の向上を中心とした動画・生放送サービスの視聴環境改善を進め、6月から新バージョン(く)(読み方:クレッシェンド)を提供しております。「ニコニコプレミアム会員」は減少傾向が続いており、当第2四半期末には194万人となりましたが、新しい生放送アプリ「nicocas」(iOS/Android版)のリリース、生放送番組にアイテムを贈ることで配信者を支援することができる「ギフト」の導入、VRコミュニケーションサービス「バーチャルキャスト」のリリース等サービス拡充に努めており、これら施策によりMAUは着実に伸長しユーザーの裾野は広がっております。

また10月には、㈱ドワンゴと㈱S-courtが共同開発した、だれでも簡単にVTuberになって生放送配信が出来るスマートフォンアプリ「カスタムキャスト」の配信が開始され、配信後11日間で100万ダウンロード(iOS/Android版の総ダウンロード数)を記録しました。VR事業領域において収益を確保すべく、今後も積極的な施策を打ち出してまいります。更に、当連結会計年度内において、"一生歩けるRPG"「テクテクテク」の提供や、"人工生命"の観察・育成プロジェクト「ARTILIFE」等の新作ゲーム提供を予定しており、ポータル事業の再成長に向けて取り組んでおります。

ライブでは、競合する他の動画サービスとの差別化を図るべく、「ネットとリアルの融合」をテーマに各種ライブイベントの企画・運営、ライブハウス「ニコファーレ」の運営等を行っております。 4月に開催した「ニコニコ超会議2018」の2日間の会場来場者数は過去最高の16万1,277人を記録、インターネット視聴者数は612万1,170人となりました。8月に開催した世界最大のアニソンライブ「Animelo Summer Live 2018 "0K!"」は3日間で8万1千人を集め、収益貢献しました。

モバイルでは、シングル楽曲/着うた®等の配信を行う総合エンタテインメントサイト「dwango.jp (ドワンゴジェイピー)」や、アニメ総合ポータルサイト「animelo」からの収益を計上しております。有料会員数は減少しておりますが、引き続き、外注費や広告宣伝費等の固定費削減に努めており、収益性を維持しております。

出版事業の売上高は550億79百万円(前年同期比1.2%増)、セグメント利益(営業利益)は30億3百万円(前年同期比25.1%増)となりました。出版事業の収益構成は多様化しており、電子書籍・電子雑誌販売、書籍、雑誌の販売、版権販売、海外拠点売上等で構成されております。書籍、雑誌の新刊点数は前年同期と比べて抑え目で推移しておりますが、電子書籍・電子雑誌がそれを補う形で伸長し、業績は堅調に推移しております。

電子書籍・電子雑誌では、当社グループの総合電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」での販売が引き続き好調に推移しており、また外販事業は、当連結会計年度より新たな外部電子書籍ストアに許諾を開始し、販売を加速させております。9月には「ニコニコ書籍」アプリと「BOOK☆WALKER」アプリを統合しました。それにより、MAUが底上げされ、作品の品揃えが拡大し、1ユーザーあたりの購入金額が上昇しております。グローバル戦略を推し進めるため平成27年10月にグランドオープンした「BOOK☆WALKER Global」や平成28年2月にオープンした「台湾BOOK☆WALKER」も高い成長を維持しております。

書籍では、コミックスの「よつばと! (14)」「ダンジョン飯 (6)」といった大型作品や「オーバーロード」「殺戮の天使」シリーズが好調に推移しております。ライトノベルは、市場が停滞している中で新たなヒットシリーズの創出、育成に注力しております。「ソードアート・オンライン」「魔法科高校の劣等生」といった人気シリーズが引き続き堅調に推移しております。一般書は、「まんがで楽しく学ぶ」をコンセプトに小学生向けに立ち上げた学習まんが「日本の歴史」や「どっちが強い!?」が多くの読者から支持を得ており、収益貢献しております。メディアミックス関連では、映画「ラプラスの魔女」や映画「ビブリア古書堂の事件手帖」の原作本や映画「未来のミライ」関連本が好調に推移しております。また、版権販売では主に遊技機向けの権利許諾が収益貢献しました。書籍はメディアミックス展開の重要な源泉の一つであり、ヒット作創出のため年間5,000点の新刊を発行する予定です。なお、平成32年4月にフル稼働を予定している最新鋭の製造・物流拠点においては、工場建設やシステム整備等がスケジュール通り順調に進捗しており、一部の文庫やライトノベルにおいて、デジタル印刷による商業生産を開始しました。

雑誌では、刊行計画や発行部数の見直し等で雑誌販売は減少しております。地域情報誌「Walker」シリーズ、ライフスタイル誌「レタスクラブ」等ではWebメディアとの連動によるビジネスモデルの転換を進めており、Webメディアのページビューや広告収入の増加等の成果につなげてまいります。

映像・ゲーム事業の売上高は238億9百万円(前年同期比3.2%増)、セグメント利益(営業利益)は25億32百万円(前年同期比34.0%増)となりました。

映像では、「STEINS; GATEゼロ」「殺戮の天使」「オーバーロード」等の海外ライセンス販売が収益に貢献いたしました。また、アニメの配信収入や「Re:ゼロから始める異世界生活」等の商品化許諾による収益貢献があり、国内外間わず豊富なIPを活用したビジネス展開を拡大させております。㈱ムービーウォーカーの展開する劇場前売券サービス「ムビチケ」も好調に推移し収益貢献しております。

ゲームでは、「DARK SOULS REMASTERED」が国内外で好調に推移し、パッケージ販売だけでなく、海外ロイヤリティ収入も収益貢献しました。また、「METAL MAX Xeno」「コナン アウトキャスト」等のパッケージゲームや、平成27年3月発売の「Bloodborne」や平成28年3月発売の「DARK SOULS III」の海外ロイヤリティ収入が引き続き好調でした。

その他事業の売上高は112億76百万円(前年同期比11.2%増)、セグメント損失(営業損失)は9億99百万円(前年同期 営業損失2億12百万円)となりました。

その他事業では、ネットとリアルを融合させた双方向性を特長とする教育プログラムの提供や、クリエイティブ 分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営を行う教育事業、キャラクター商品の企画・制作・販売やアイドルCDのeコマース等のMD (物販)事業を行っております。また、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年を収益化の目途としているインバウンド事業の準備費用が計上されております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,021億29百万円(前年同期比0.6%増)、営業利益28億64百万円(前年同期比0.2%増)、経常利益39億34百万円(前年同期比29.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益21億19百万円(前年同期比21.1%増)となりました。

なお、株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため、平成30年5月10日開催の臨時取締役会において平成30年9月28日までを対象期間、2,600千株、30億円をそれぞれ上限とする自己株式の取得を決議したことに伴い、2,562,600株、2,999,951,100円の取得を完了しました。

# (2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて18億8百万円減少し、2,380億73百万円となりました。長期借入れによる収入があったものの、自己株式の取得並びに支払手形及び買掛金の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて11億38百万円減少し、1,296億14百万円となりました。支払手形及び買掛金 並びに未払金が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて6億69百万円減少し、1,084億58百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等により利益剰余金が増加した一方で、自己株式の取得により株主資本が減少しました。

## ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上等により、31億89百万円の収入(前年同期は51億19百万円の支出)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等があったものの、定期預金の払戻等により、35億21百万円の収入(前年同期は60億74百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入があったものの、自己株式の取得及び配当金の支払等により、3億49百万円の支出(前年同期は40億3百万円の支出)となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて65億13百万円の収入となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、739億21百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成30年5月10日に公表しました業績予想から変更ありません。

# 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

# (1) 四半期連結貸借対照表

	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間
	(平成30年3月31日)	(平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	85, 962	84, 598
受取手形及び売掛金	44,734	42, 178
たな卸資産	17, 301	18, 266
前払費用	1,540	1,822
預け金	2, 219	1,878
その他	4, 205	3, 582
貸倒引当金	△651	△695
流動資産合計	155, 312	151, 632
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15, 852	17, 160
減価償却累計額	△5, 298	$\triangle 5,694$
建物及び構築物(純額)	10, 553	11, 466
機械及び装置	2, 537	2,620
減価償却累計額	△695	△864
機械及び装置(純額)	1,842	1,755
工具、器具及び備品	11, 045	10, 921
減価償却累計額	△7, 584	$\triangle 7,542$
工具、器具及び備品(純額)	3, 460	3, 379
土地	19, 948	20, 255
建設仮勘定	9, 977	8, 998
その他	364	370
減価償却累計額	△247	△247
その他(純額)	116	122
有形固定資産合計	45, 899	45, 977
無形固定資産	40,099	40, 911
無ル回足員座 ソフトウエア	5, 632	5, 859
のれん	1, 055	973
その他	2, 107	1, 806
無形固定資産合計	8, 795	8, 639
投資その他の資産	01 070	99.750
投資有価証券	21, 072	23, 759
退職給付に係る資産	54	50
差入保証金	3, 968	3, 967
繰延税金資産 その他	2, 512	1,570
その他	2, 981	3, 187
貸倒引当金	<u>△715</u>	△712
投資その他の資産合計	29, 874	31, 823
固定資産合計	84, 569	86, 440
資産合計	239, 881	238, 073

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26, 613	24, 938
短期借入金	505	472
1年内返済予定の長期借入金	14, 844	3, 848
未払金	6, 832	4, 790
未払法人税等	1, 195	1,617
前受金	8, 013	6, 806
預り金	3, 237	2, 985
賞与引当金	2, 712	2, 961
ポイント引当金	94	109
返品引当金	7, 275	6, 461
株式給付引当金	119	96
役員株式給付引当金	126	126
その他	2, 695	2, 933
流動負債合計	74, 266	58, 147
固定負債		
長期借入金	50, 050	65, 053
繰延税金負債	1, 142	1,090
退職給付に係る負債	3, 289	3, 321
その他	2, 004	2,000
固定負債合計	56, 487	71, 466
負債合計	130, 753	129, 614
純資産の部	<u> </u>	,
株主資本		
資本金	20, 625	20, 625
資本剰余金	62, 095	62, 095
利益剰余金	28, 846	29, 617
自己株式	$\triangle 7,452$	$\triangle$ 10, 430
株主資本合計	104, 114	101, 907
その他の包括利益累計額		·
その他有価証券評価差額金	1,841	3, 572
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1, 100	823
退職給付に係る調整累計額	69	67
その他の包括利益累計額合計	3, 021	4, 474
非支配株主持分	1, 992	2, 077
純資産合計	109, 128	108, 458
負債純資産合計	239, 881	238, 073
六 [R/P0 R/产 I] III	200,001	200, 010

# (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
売上高	101, 473	102, 129
売上原価	73, 480	73, 765
売上総利益	27, 992	28, 364
販売費及び一般管理費	25, 133	25, 500
営業利益	2,858	2, 864
営業外収益		
受取利息	43	55
受取配当金	234	356
持分法による投資利益	367	246
為替差益	7	295
その他	191	180
営業外収益合計	843	1, 134
営業外費用		
支払利息	49	49
寄付金	610	-
その他	3	14
営業外費用合計	662	63
経常利益	3,039	3, 934
特別利益		
固定資産売却益	_	7
投資有価証券売却益	320	12
投資有価証券償還益	125	_
関係会社株式売却益	13	_
特別利益合計	459	20
特別損失		
投資有価証券売却損	196	_
投資有価証券評価損	32	54
関係会社清算損失引当金繰入額	71	_
その他	0	4
特別損失合計	300	59
税金等調整前四半期純利益	3, 198	3, 896
法人税等	1, 444	1,749
四半期純利益	1, 753	2, 146
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,749	2, 119

(四半期連結包括利益計算書) (第2四半期連結累計期間)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純利益	1, 753	2, 146
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,005	1,731
為替換算調整勘定	△253	△276
退職給付に係る調整額	10	$\triangle 1$
持分法適用会社に対する持分相当額	$\triangle 24$	$\triangle 37$
その他の包括利益合計	738	1, 416
四半期包括利益	2, 492	3, 563
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2, 505	3, 571
非支配株主に係る四半期包括利益	△13	△8

営業活動によるキャッシュ・フロー 税金等調整前四半期純利益 3,198 減価償却費 2,574 のれん償却額 118 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) △48 返品引当金の増減額(△は減少) △873 賞与引当金の増減額(△は減少) △147 受取利息及び受取配当金 △277 持分法による投資損益(△は益) △367	3, 896 2, 937 88 33
減価償却費 2,574 のれん償却額 118 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) △48 返品引当金の増減額 (△は減少) △873 賞与引当金の増減額 (△は減少) △147 受取利息及び受取配当金 △277	2, 937 88 33
のれん償却額 118 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) △48 返品引当金の増減額 (△は減少) △873 賞与引当金の増減額 (△は減少) △147 受取利息及び受取配当金 △277	88 33
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)       △48         返品引当金の増減額 (△は減少)       △873         賞与引当金の増減額 (△は減少)       △147         受取利息及び受取配当金       △277	33
返品引当金の増減額 (△は減少)△873賞与引当金の増減額 (△は減少)△147受取利息及び受取配当金△277	
賞与引当金の増減額 (△は減少) △147 受取利息及び受取配当金 △277	
受取利息及び受取配当金 △277	△801
	248
持分法による投資損益(△は益) △367	$\triangle 411$
	$\triangle 246$
売上債権の増減額(△は増加) △1,618	2, 524
たな卸資産の増減額( $\triangle$ は増加) $\Delta$ 931	$\triangle 1,015$
仕入債務の増減額(△は減少) △1,759	$\triangle 1,647$
前受金の増減額( $\triangle$ は減少) $\Delta$ 914	$\triangle 1, 193$
その他 <u></u> △2,849	△800
小計 △3,896	3, 611
利息及び配当金の受取額 460	663
利息の支払額 △48	△48
法人税等の支払額	△1,036
営業活動によるキャッシュ・フロー △5,119	3, 189
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の純増減額(△は増加) △4,375	7, 792
有形固定資産の取得による支出 △1,805	$\triangle 2,202$
無形固定資産の取得による支出 △1,094	△1,600
投資有価証券の取得による支出 △183	△411
投資有価証券の売却による収入 965	29
投資有価証券の償還による収入 225	_
出資金の分配による収入 65	66
その他 <u>127</u>	$\triangle 152$
投資活動によるキャッシュ・フロー △6,074	3, 521
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少) 118	$\triangle 22$
長期借入れによる収入 18	15, 040
長期借入金の返済による支出 △1,078	△11,078
非支配株主からの払込みによる収入 114	108
自己株式の取得による支出 △1,742	△3,000
配当金の支払額 $ riangle 1,391$	△1, 348
その他 △41	$\triangle 48$
財務活動によるキャッシュ・フロー △4,003	△349
現金及び現金同等物に係る換算差額 △38	152
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) △15,236	6, 513
現金及び現金同等物の期首残高 91,140	67, 407
現金及び現金同等物の四半期末残高 75,903	73, 921

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記) 該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) 該当事項はありません。

### (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社である㈱KADOKAWAは、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について主として定率法 (平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附 属設備及び構築物については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法へ変更して おります。

この変更は、㈱KADOKAWAにおいて経営環境の変化と競争力確保を目的として書籍の製造・物流一体の最新鋭工場の建設を進めており、第1四半期連結会計期間より生産設備が順次新規稼働したことを契機として、減価償却方法の見直しを行ったことによるものです。当該検討の結果、㈱KADOKAWAにおける有形固定資産はその使用期間中を通じ安定的な稼働が見込まれることから、定額法に変更し使用期間を通じて均等に費用配分を行うことが、事業の実態をより適切に反映するものと判断いたしました。

この変更により、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ152百万円増加しております。

#### (追加情報)

### (「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

### (セグメント情報)

### 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ā	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額	
	Webサービス	出版	映像・ゲーム	(注) 1		(注) 2	(注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	15, 305	53, 655	22, 669	9, 829	101, 459	13	101, 473
セグメント間の内部 売上高又は振替高	100	744	402	311	1, 558	△1, 558	_
計	15, 406	54, 399	23, 071	10, 140	103, 017	△1, 544	101, 473
セグメント利益又は 損失 (△)	393	2, 400	1, 889	△212	4, 471	△1, 612	2, 858

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおります。
  - 2. セグメント利益又は損失の調整額 $\triangle$ 1,612百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去75百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益960百万円、全社費用 $\triangle$ 2,648百万円であります。
  - 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	Webサービス	出版	映像・ゲーム	(注) 1		(注) 2	(注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	13, 772	53, 983	23, 412	10, 931	102, 100	29	102, 129
セグメント間の内部 売上高又は振替高	56	1,095	396	345	1, 893	△1, 893	_
計	13, 828	55, 079	23, 809	11, 276	103, 993	△1, 863	102, 129
セグメント利益又は 損失 (△)	△100	3,003	2, 532	△999	4, 436	△1, 571	2, 864

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおります。
  - 2. セグメント利益又は損失の調整額△1,571百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去90百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益1,137百万円、全社費用△2,800百万円であります。
  - 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### (重要な後発事象)

該当事項はありません。